第５回御前崎市学校再編検討委員会会議録

日時　令和５年１月３０日（月）午前１時 30 分開会
場所　御前崎市役所　３階　301 会議室

１　開　会
２　教育部長あいさつ
３　（１）令和４年度実施状況の報告　　（教育総務課長）
　　（２）今後の予定について　　（教育部長）

４　閉　会

第５回御前崎市学校再編検討委員会出席者

御前崎市学校再編検討委員８名
御前崎市教育委員会事務局

教育部長	長尾 詔司
教育総務課長	西郷 成美
学校教育課主席指導主事	窪野 由利子
教育総務課課長補佐	栗林 正和
教育総務課係長	坂本 浩長
教育総務課指導主事	澤入 基裕

欠席者　御前崎市学校再編検討委員４名

１　開　会

○司会（教育総務課係長　坂本浩長）　ただいまから第５回御前崎市学校再編検討員会をはじめさせていただきます。

－相互に礼－

それでは、最初に長尾教育部長からあいさつをさせていただきます。

２　教育部長あいさつ

○教育部長（長尾詔司）　皆さん、こんにちは。教育部長の長尾でございます。今日の会に御出席の皆さんにつきましては、昼間のお忙しい中ありがとうございます。また、堀井、武井両先生につきましては、お忙しい御予定の中ありがとうございます。先週は、寒波で大分冷え込みまして、今日も冷たい風の中で、まだなかなか冬が終わらない感じです。

本日の第５回御前崎市学校再編検討委員会につきまして、今回このような会を開かせていただいた訳は、委員の皆さんは、令和３年度・４年度、２年間の委嘱で検討委員の任に就いていただきました。予定ですと、最初の計画では、昨年 12 月に計画策定をするということでしたが、その後、各方面から、もっと時間をかけて、皆さんのいろいろな意見を聞いたらどうかという話が出ました。予定を変更しまして、今年の３月までに策定をしましょうということになったのですが、それも議会関係、各方面からも、もう少し時間をかけてはどうかという話もありました。併せまして、今日は、この場に教育長がおりませんが、昨年の 12 月 31 日をもって教育長が退任されまして、４月から新教育長が決まる予定です。教育長は教育委員会のトップでもありますので、教育長不在のときに学校再編計画の策定というのもなかなかできかねるかと思いまして、年度内の報告としていましたが、時間を遅らせていただきまして、４月以降またもう少し時間をかけて進めてまいりたいということです。今回、その報告を兼ねまして、この後教育総務課長から令和４年度の実施状況の報告がありますが、その報告を受けて、その後、今後の予定ということで、私から説明をさせていただきたいと思います。予定が変わってしまって、委員の皆さんには毎回集まっていただいて時間を取っていただきながら、このような状態になってしまい、大変申し訳ございません。委員としての２年間の任期はこれで一旦終了ということにさせていただきます。この２年間、委員の皆さんからお伺いした意見、市民ワークショップでいただいた意見等を総合しまして、教育委員会事務局で考えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。本日はよろしくお願い致します。

３　（１）令和４年度実施状況の報告

○司会（教育総務課係長　坂本浩長）　続きまして、次第３の（１）ということで、令和４年度に実施した内容の報告を教育総務課長の西郷からさせていただきます。

○教育総務課長（西郷成美）　教育総務課長の西郷と申します。今年度から教育総務課長に就任させていただきました。私からは、令和４年度実施状況の報告ということで、説明させていただきます。なお、この報告の後に、皆様方から報告について感想をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。まず、１ページを御覧ください。先程、部長のあいさつの中でもありましたように、昨年度の検討委員会の中で皆様にお知らせしてありましたが、今年度のスケジュールとして、昨年度、検討委員会における委員の皆様から頂いた御意見を踏まえまして、市民の方々への広聴会を行った後、再編計画の素案を教育委員会として作成し、議会への報告の後、パブリックコメントなどを実施して、計画を策定するということで、当初、予定をしておりました。今年度に入りまして、スケジュール通りに進めるべく６月に２回、７月に１回の広聴会を開きました。市民の方々より御意見をいただきましたので、検討委員と市民の方々からの意見を踏まえたうえで、事務局で再編計画素案を作成しておりました。その過程におきまして、先程も言いましたが、御承知のとおり、牧之原市の小中一貫校の計画もありまして、御前崎中学校について、もう少し地元の意見を幅広く聞いたほうがいいのではないかと判断し、御前崎地区、白羽地区にお住まいの方を対象にしまして、11 月と 12 月に合わせて２回、市民ワークショップを開催いたしました。ここでは、広聴会とワークショップでいただいた意見を２ページ以降に載せてございますので、それを報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

２ページを御覧ください。検討委員会においてもそうだったのですが、今回の広聴会におきましても、意見を聞くというスタンスで臨みましたので、質問と意見はこういうものがでましたということで皆様には知っていただきたいと思います。掲載の中から抜粋して説明させていただきます。まず、令和４年６月 18 日、土曜日、池新田地区センターにおきまして、１回目の広聴会を行いました。県内他市でも学校再編問題が話題となっており、地域から学校が無くなってしまうのは、地域に影を落とすことになる。しかし、現状を見ると、御前崎市においても学校再編しなくてはならないと考えているのも理解できるということです。とばしまして、牧之原市の計画に伴い、地頭方の子が相良の義務教育学校に離れていくが、白羽、御前崎で小中一貫校にしていくのか。例えば、中学校を市内１つにして浜岡中学校へ御前崎からも通うにしても相当な時間がかかると思う。これからいろいろなことが出てくると思うが、今、分かっていることを伝えてほしいという質問もありました。

続きまして、次の３ページを御覧ください。今後の学校再編スケジュールの中で、進捗状況の報告を広報等で行ってもらいたい。パブリックコメントの実施については、意見が寄せられやすいよう工夫して欲しいという意見。また、学校再編を考えるならば、出発点として御前崎市の教育がどうあるべきかというところからであって、その中で環境の変化により学校再編も選択肢となるという話だと思う。牧之原市云々ということでなく、御前崎市としてどうあるべきかという問題だ。浜岡中学校と御前崎中学校の教育環境の格差は歴然であり、御前崎地区の人たちの教育をどうするかということも考えていくべきだ。学校再編計画

については、未来が見え、御前崎市の子どもたちの教育をどうするという大きな構えの中、深く考えて欲しいという意見をいただきました。

続きまして、４ページ。２回目、６月 24 日に文化会館で行いました。私の居住するのは浜岡北小学校区で、人口がかなり減っているが、説明を聞くと、機械的に人数が減ったから合併再編しようという話ではなかったので一安心した。人数が減ったから学校をなくすというようなことはできるだけさけてほしいなどの意見をいただきました。

次に、市になって２つの中学校が刺激しあっていることがいい効果を生んでいるので、子どもの数が少なくなっても浜岡東小の子どもを御前崎地区の中学校へ行かせる等、１市２中学校制を維持してもらいたい。これは、あくまでも個人の意見で出たものでございます。

次に、牧之原市では小中一貫校で進んでいくとなっている。小中一貫校のメリットを教えてほしい。御前崎市としては小中一貫校についてどのように考えているのか。友好都市の王滝村は、最近、中学校が合併するまで在校生数人で中学校が存在していたとのこと。そういう自治体がある中、御前崎市は、なぜ、今、学校再編なのかという質問をいただきました。

５ページ、御前崎中学校の人員のキャパシティはどれくらいか。同じく、浜岡中学校のキャパシティはどれくらいか。学校ではなく、学区の再編は考えているのかという質問も出ております。

続きまして、６ページを御覧ください。３回目、７月９日、文化会館で行いました。学校再編計画は、牧之原市も作り、確かに他市も検討している。しかし、理由は何か。それは、大人の都合ではないか。最後の１人になるまで、学校があってもいいのではないか。無理に統合する必要はないと思う。それぞれの地区の伝統を守るのもよいのではないか。更に地域に開かれた学校にしていくべきでもあると思う。バス通学になるとコストがかかる。そういった情報も示すべきではないか。バス通学の子の体力は低いという意見もあるという意見。また、その逆の意見としまして、次の、前の発言された方とは考え方がまったく違ったので発言させてもらう。バス通学おおいに結構。その先を見て、指導をし、学校再編計画を立ててほしい。私は、伝統だなんだということに囚われることのほうが親のエゴだと思うという意見も出ております。

続きまして、７ページを御覧いただきたいと思います。この再編計画について後手後手だと感じる理由は以下の４点であるということで、意見をいただいております。１つ目、市合併の際、浜岡中学校と御前崎中学校の２つがあり、既に問題であった。２つ目、東日本大震災の際、津波浸水区域内にある地頭方小学校のあり方については、牧之原市が検討するのは明らかであった。３番目、浜岡中学校の建て替えの際、学校組合、旧御前崎町の子どもたちのあり方について検討できなかったのか。４番目、牧之原市の再編計画ができたから御前崎中学校のあり方を考えるというのは、おかしいのではないかという意見を、あくまでも意見でいただきました。次に、小中一貫教育について、浜岡と御前崎、それぞれであってもよいのではないかという意見をいただいたところです。

８ページを御覧いただきたいと思います。広聴会に参加できずに教育委員会事務局へ直

接連絡をいただいて、質問をいただいた件を載せてあります。教育委員会事務局の考えでありますので、この質問への回答も一緒に紹介させていただきます。

質問としては、学校再編計画の策定にあたり、御前崎市のこれからの人づくり、学校づくりをどのようにしたいと考えているか。また、ＤＸ、デジタル変革により、どのような授業風景になると想像しているかという質問に対しての答えとしましては、教育委員会では、『スクラムで取り組む「郷土を愛し、未来を創る人づくり」』を基本目標としている。基本方針は、『園、学校、家庭、地域などが、スクラムを組んで協働することによって、思いやりがあって互いを認め合うことができ、たくましくしなやかな子どもが育つこと』であり、市の特色を活かした教育や体験による愛郷心の育成を目指していきたいと考えている。小学校については、学区の住民の方々と連携し、地域の人材を活かすとともに、学校支援ボランティアの御支援をいただきながら、地域に根付いた学校を目指す。学校規模の大小はあっても、その地域の特色があらわれた教育を展開できればと思う。基礎学力を身につけることは勿論だが、読書や自然体験活動を大切にしたいと思う。中学校については、高校等に進む前段階として、様々な学び、探究、広い人間関係づくりの場となることを目指す。適正規模を確保し、専門教員を揃え、充実した教育施設の中で、基礎学力の定着、興味を持った分野での自主研究、ICT、図書館の活用、できるだけ多くの仲間たちとの交流に励んでほしいと思っている。次にＤＸによる授業風景だが、現在御前崎市では GIGA スクール構想での１人１台端末が整いつつあるため、端末を利用した授業が進んでいる。今後は、ICT 端末の整備やデジタル教科書等の AI 教材の導入等により、個々の最適な学びを提供しながら、児童生徒一人ひとりに寄り添った授業、また他校の児童生徒や地域の人々とのオンラインによる学びの授業など、様々な形での授業になっていくと思われる。ただし、児童生徒同士の直接の会話や討論は、子どもたちの人間的成長のために欠くことのできないものと認識している。ICT を活用していくことは必須だが、子ども同士、子どもと教員の生の関わりは大切にしたいと思うと回答いたしました。これにつきましては、先程も申し上げましたが、教育委員会としての基本的な考えですので、御承知おきいただきたいと思います。続きまして、10、11 ページは、広聴会の記録写真でございます。

12 ページからは、市民ワークショップを開催しましたので、その報告をさせていただきます。写真にあるとおり、牧之原市のファシリテーターグループの一般財団法人 CLIP による進行のもとに、テーマを「御前崎の中学校の未来を一緒に考えよう！」と題しまして、当日の資料は最後につけてありますが、この資料にあります情報提供をした後、地域の中学生が大切にしたいものはというテーマでグループワークを行いまして、参加者の方々から自由な御意見をいただいたところでございます。資料につきましては、今、ここでは説明はいたしませんが、また後ほど御覧いただけたらと思います。15 ページには、１回目の意見を箇条書きで記載しております。抜粋して紹介させていただきます。

１つ目、御前崎中学校が無くなるのはさみしい。思った以上に人口の減少があることが分かった。地域の人、力を活かしていこう。ICT やデジタルワークは、日々、進んでいるため、

今の学校の枠にとらわれない、いろいろな学習環境のつくり方はあるのではないかという意見が出ております。

16ページからは、2回目の様子となっておりまして、19ページにそのときの意見を載せております。また抜粋して紹介させていただきます。2つめ、人口が減っているのは分かっていたが、数値として改めて見ると、すごい数字だなと思った。全教科分の先生がいないとなると、大変なことだなと思う。人数減により、部活動も今のまま維持できないのではないか。体育祭等、学校行事も少人数により形を変えなければならないのでは。御前崎中の安心で安全「治安がよい」というところは守ってほしい。御前崎中の治安がよいという意見は、中学生、高校生からも出ております。何か、浜岡中が悪いというイメージがあったようなのですが、実際はそうではありませんので、御承知おきください。これらの意見が出ております。今後のスケジュールにつきましては、後ほど、部長から説明がありますので、以上をもちまして、簡単ではございますが、令和4年度、実際このように広聴会とワークショップを開催させていただきましたので、御報告とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○司会（教育総務課係長　坂本浩長）　ありがとうございます。今年度、実施した集まりの報告と内容の抜粋ということで、教育総務課長から資料に基づいてお伝えをさせていただきました。今日、お忙しい中、集まっていただきまして、最初に教育部長から現在状況と当初スケジュールとの相違ということで少し触れたところがありまして、教育総務課長から行ったことの報告を資料を見ながら聞いていただいた中で、ちょっと唐突ではありますけれども、出席いただきました皆さんから、特に保護者の方につきましては、今年から御自身のお子さんも小学校に通いだす中で感じていること等も含めて、発表という形で伺っていきたいと思います。よろしくお願いします。最後に両教授に回る順番でお願いしたいと思います。私に席が一番近い委員さんからお願いしたいと思います。

○検討委員A　皆さん、いろいろすごく考えていただいているなというのは、すごく感じています。実際、自分の子供が小学校に上がって、1クラス24人のクラスになって、みんなすごくいい子たちだし、このままいって仲良くしてくれればいいなと思っていたのですが、1クラスなので、人間関係がどうなっていくのだろう、クラス替えがないというのも少し不安があります。牧之原市の地頭方の子たちがいなくなってしまったら、私は御中が母校なのですが、人数が減って学校が無くなってしまったら寂しいなということを少し感じました。でも、御小と白小だけだと、今後、人数が中学校にしては少ないのかなということも感じました。でも、浜中に通うのもという、はじめ、一緒になるらしいねという話も聞いたこともあったのですけれど、実際どうなのでしょう。もし、そうなったとしたら、どうなるのだろうなということを考えることもありました。

○検討委員B　広聴会を文化会館と池新田でやっていただいたというので、これで出てい

る意見も、我々が何回かやっていく中での意見と同じようなものもありますし、独特なものもあるのかなと思いました。例えば、7月9日の文化会館での相反する意見が連続しているところ、変えないほうがいいと言った人の次の人が、前の発言された方とはまったく違った発言をさせてもらうみたいな。対立ではないのですが、それぞれの良い悪いで判断できないような意見も正直に出たりしているので。おそらく文言を読み取るに、若い人の意見ではないのではないかと思うのですけれど、それはそれで、いろいろな年代の方、お年を召した方といったら失礼ですけれども、そういう方であったり、我々のようなまだまだ子育て真っ最中のような人たちだったり。正直、自分たちの子どもがまた親になったときぐらいの話に直結してくる話でもあると思うので、正にそういうところに繋げて話をしてくだされば よいと思いますし、やっぱりこう、見ていってスクラム基本方針の中で地域という文言もあるものですから、該当になる子どもがどんどん減っていけば、親の数も減っていく、世帯の数も減っていくということで、実際にそれにあたるのが自分たちだけということではなくて、まったく子どもがいなくなったような近所のおじいちゃん、おばあちゃんたちも旗を持って朝立ってくれるとか、すごく貢献してくれて、すごく助かっている面もありますので、そういう方の意見も大事にしながらやっていかなくてはいけないのではないかなと感じました。皆さん、同じような意見を持ってくださっているのかなと思って、安心したというのも変ですけれども、こういうふうに感じてくださっているのだなと思いました。私自身の子どもは、上の子が既に小学校に通っているので、初めてではないので、抵抗なく通わせてもらっていますし、特別にはないのですけれども、今年度からPTAのほうで御縁があってお世話になることになったものですから、そういうこともありますよということで、またいろいろ経験をさせていただきたいなという状況です。以上です。

○検討委員 C　この資料を見たのですけれど、仮に浜岡中学校にみんなで行くとなった場合には、25ページの令和16年度の人数だったら、多分、1学年6クラスぐらいに収まるのかなと、話を聞きながら思っていました。なので、この話をもし仮に現実化するならば、ここら辺が限度かなということと、御前崎中学校がいいなと思うのは、御中はスクールバスを使わずにみんな登校できるので、白羽小学校区と御前崎小学校区には一番いいのかなと思います。ですので、御前崎地区の人からすれば、御前崎中学校は校区が通いやすくていい学校なのではないかなと思います。それで、学校の先生についての記載があったのですが、最近、コロナで4年生くらいからタブレットを使用し家で授業が受けられるので、仮に浜岡中にいる先生が御前崎中にリモートで数学の授業をするとか、実験と技術がなければ、多分、授業ができるのではないかと思います。一応、浜岡中と御前崎中を残すという案もなくはないかなと思いました。

○司会（教育総務課係長　坂本浩長）　ありがとうございます。まず、1点目については、29ページの学齢人口、子どもたちの人数予想における先生の配置定員ということになるの

ですが、教育総務課長ちょっと触れていただけるとありがたいです。

○教育総務課長（西郷成美）　教職員の数が減るということで、資料の 29 ページを御覧いただきたいと思います。このように生徒の数が減っていくと、資料にありますように公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律により、教職員の数も積算するようになっております。このように、だんだん減っていきますと、2030 年のところでは、現在、教職員 18 人いるところが、生徒が 118 名になりますと積算により教職員が 10 名、この中には校長先生、教頭先生が入っておりますので、実質 8 名ということであります。中学校は教科ごとに先生がいるものですから、 8 名になりますと教科数に対して教職員数が不足します。現状はそのような状態は起こっていませんが、生徒数が減っていくと教職員も減っていくということで、推測した積算を掲載しています。25 ページを御覧ください。先ほど、御前崎中が残ったほうがというお話があったのですが、2030 年度には牧之原市が小中一貫校を作るということで、地頭方小学校からの生徒が来なくなりますので、御前崎の子どもだけが通うということになります。御前崎中は牧之原市に建っていますので、そこから出なくてはいけなくなるということで、今の場所にずっといるということができなくなるものですから、御前崎中を残すということになりますと、御前崎市内で他の場所に学校を建てなくてはいけなくなりますが、それはまた今後、考えていかなくてはいけないことなのかなということで、計画のほうでどのようにするかを考えていきたいと思っております。

○司会（教育総務課係長　坂本浩長）　教職員定数については、窪野首席、今の説明でよろしいですか。

○学校教育課主席指導主事（窪野由利子）　はい。

○司会（教育総務課係長　坂本浩長）　市民ワーキングでもこの資料を提示させてもらいまして、いわゆる法律における教職員の配置定数ということではこのようになるかと思います。一方、検討会の中で武井先生も触れてくれましたが、例えば単費（御前崎市の予算）とか、それ以外の方法でそれ以上の先生を置くことも方法としてはあります。それから、もう１つ出ました、リモート ICT の利用をいかした形で工夫ができるのではないかということですが、それは全くその通りだと思います。そこを考察する上において参考として、今の御前崎市内の学習環境いわゆる文科省の GIGA スクール構想以降の学校現場の ICT 及び端末学習環境の現状ということで、澤入指導主事から報告をお願いしてもいいですか。

○教育総務課指導主事（澤入基裕）　教育総務課で GIGA スクール構想の担当の指導主事をしています澤入と申します。現在の御前崎市についてですが、小学校 3 年生以上には Chromebook という端末を配布しています。多くの学校、学年で、端末は家に持ち帰ってい

るという形になります。小学校１、２年生については、i-Pad を使って学校内での学習という形で、クラウドを利用しながら進めています。今後、Chromebook を小学校１、２年生にも導入して、クラウドでの学びをより充実していくという方向で動いています。オンラインの授業についてですが、現在は、欠席児童、不登校傾向の児童生徒、そういったところに対してのオンライン授業をしているという形になります。例えば、教職員のほうが自宅でということになってしまった場合は、自宅から学校の教室にオンラインで授業を配信ということも実際に行っています。あとは、中学校区で、例えば御前崎中学校区で白羽小学校、御前崎小学校、地頭方小学校の子どもたちと御前崎中学校の子どもたちがつながって、オンラインで意見交換を行ったり、学校の紹介をしたりということもありましたし、御前崎中学校は、掛川の中学校とオンラインで結んだりとか、榛原高校とオンラインで結んで授業ということも実際に行っているということはあります。ただ、オンラインの課題というものもまだまだありまして、子どもたちにとってこれからの時代に必要な力を身につけさせてあげるといったところで考えたときに、単純に受験学力的な点数だけとなれば、もしかしたらオンラインでもなんとかなる可能性はゼロではないかなと思いますが、社会に出て充実した生活を送るということになると、オンラインだけでは現状、かなり苦しいというか、足りない部分というか、コミュニケーション能力の部分であるとか、まだまだ苦しいかなと思っている部分もあります。また、評価という観点でいくと、オンラインだけの授業で子どもたちの評価をするとなると、本当にこうテストの点数だけになってしまったりとか、子どもたちの本来考えているものというところであったりとか、粘り強くいろいろな課題に取り組んでいる姿であったりとかというところを評価するというのは、なかなか見取れない部分があるというのは、学校の教職員からするとあるのかなというところで、授業をただ配信するというだけであればなんとかなるというのは事実ですが、いい授業、いい教育をしていくというところでは、まだまだ現状では課題があるのかなというふうに感じています。以上になります。

○司会（教育総務課係長　坂本浩長）　ありがとうございます。指導主事という立場で、各学校の状況を見守りながら、澤入指導主事については、学校のオンライン等の授業支援ということでも日々、学校を回ってくれています。私も同じ教育総務課というところにいまして、そういった中で整備すべきハード、ソフトがあればということを考えながら、自分たちなりに工夫しながらやっています。今後においても、今、委員さんから出たように、ICT によっていかされるものが教育現場でも数々あると思いますので、そういったものも含めて学校再編というカテゴリの場でもいかしていければと思っています。途中で少し報告を挟ませていただきました。続いて、次の委員さん、お願いしてもよろしいですか。

○検討委員Ｄ　私はもう年なものだから、2030 年にはいないかもしれないですが、学校再編といえば、私が幼稚園か小学校１年生くらいかな、まだ朝比奈北中学校があったのですよ。

朝比奈から自転車で通っていました。今までは浜岡北小学校区くらいが旧の中学校区だったのが今度は池新田へ通わなくてはいけないとなりました。昔だから道も舗装ではないし、自転車も無い家もありました。私が個人的に思うのですが、今は送り迎えとか、交通機関、公のものを使ってやっているのだけれど、あと 10 年もたてば、自動バスが迎えに来てくれるような交通の変革があるのではないのだろうか。10 年先になればもっと変わってくると思うのだけれども。そうしたら、会議で一生懸命だったのは、何をやっていたのだということになるかもしれない。道をそれた話ばかりで申し訳ないのだけれども、小中一貫教育も賛成、反対で、牧之原市はどんどんやる。全部が、賛成か反対になる。そうしたら、何かすごくいいことがあるか。こういうことがだめで、こういういいところがあるというのをもっと箇条書きで、賛成、反対を分かりやすく出したらどうかと思います。それから、子どもの気持ち。人の触れ合いがどんどん無くなって、何かロボットみたいにみんななっていくのかなと、情けなくなってしまうところなのだけれども、送り迎えをするのが 10 年後にはこういうふうになるのではないかとか、いろいろな専門の先生に予想している情報を流してやって欲しいなと思います。みんな勉強していったほうがいいと思いますね。10 年先は分からないですから。とても難しく考えていたことが、すごく簡単になっていて、通学のことなど考える必要はないよとか。私は、小中一貫教育にとても関心があるのですが、なぜ牧之原市はどんどん進められているのか、私には分からない。御前崎市は嫌だと言っているようですが、考えてもいいと思います。例えば、浜岡北小の子どもが、社会の授業を第一小へ行って一緒に学ぶとか、交流を深めること、人の付き合いを先に盛んにやったほうがいいと思います。パソコンの教育が進んでいますが、インターネットで得られる情報がすべて正しいわけではないので、間違っていることもあるよと教えることはすごく大切だと思います。

○検討委員Ｅ　１年間、会議があって、いろいろ参加させていただきましたけれども、学校の再編ということで、時代の変化とともに少子化ということが本当に大事な時期になってきていると思います。少子化に伴って、この１、２年の間に政府の方針みたいなもので、教員の働き方改革とか、オンライン授業とか、部活動を地域に負担させて教員の負担を減らしていこうとか、いろいろな方針が出ていますけれども、それに合わせて御前崎市内でも学校の再編を含めて、いろいろ改革しなくてはいけないことが多いかと思います。その話し合いの中で、いろいろな感想や意見を出しましたが、やはり何か今の感じで１年間を見ると、御前崎地区の話みたいな感じで、浜岡地区の私としては少し真剣さが足りなかった面もあるかと思うのですけれども、それでもあと 10 年もすれば浜岡地区でも同じような話になってくるのではないかなと思います。本当に大変な問題にかかわらせていただいたわけですけれども、今後は地域の中で見ていければと思います。ありがとうございました。

○市内校長代表　ありがとうございます。本当にこの今の市の現状として、子供の数についても数値を示して、市内のいろいろな知見を持つ方に御意見を伺う機会を、広聴会やワーク

ショップ、そういうところで作ってくださって、いろいろな方の意見がこのように集まってきたのは、今後の再編計画を考えていくのに貴重な意見をいただけたのではないかなと思います。学校で自分たちが子どもたちと一緒に生活していく中で、やはり学校だけでは子どもたちの教育活動をやっていくことはできなくて、地域の方の支えであるとか、支援、御協力、そういうものがすごく欠かせないものであるし、そういうものを支えてくださっているのは、やはり地域の方の学校に対する愛情であるとか、愛着であるとか、やはり自分の母校というものを大事にしたいというような思いを、日々、ひしひしと感じながら、教育活動をさせていただいています。なので、地域の皆さんや、子どもたちの保護者の皆さんに感謝の思いを、もちろん学校でも日々、持ちながらやらせていただいています。やはりいろいろな考えを持っている方がいらっしゃると思うので、引き続き、いろいろな立場の方であるとか、子どもも、もちろんそうですし、やはりこういう会に出てきてくださっている方は、すごく関心を持ってこの問題に関してかかわろうとしたり、自分も考えたいと思ってくださっている方々だと思うのですが、これ以外にもたくさんの支えてくださる方々がいらっしゃるので、たくさんの方々の意見が聞けるといいなと思います。すべての方の意見を反映するというのはすごく難しいとは思うのですけれども、でも、みなさんが納得できるような再編計画を作っていくためには、やはり、よりたくさんの意見を吸収できるような方法をまた今後も続けていっていただければと思います。

○検討委員（静岡大学教授　武井敦史）　皆さん、１年間お疲れ様でした。最後に堀井先生にまとめていただくので、私は余談というわけでもないのですが、これからどんなふうに進んでいくのかなと考えるにあたってのヒントみたいなことを、ちょっと皆さんにお伝えさせていただければと思います。実は、私は、御前崎だけでなく、いろいろなところで学校再編計画にかかわっています。この辺だと掛川、菊川、牧之原、島田、焼津あたりでしょうか。いくつかの自治体でこういう仕事をさせていただいて、人口が増えてきて新しい学校を作ろうという話と違って、減ってきてなんとかしなくてはいけないというのは、確かに辛い話題ではあると思います。だけど、市の未来のことを考えたら、このまま放っておくという選択肢は、たぶんないだろうと、何らかの動きは、それはしなければいけないだろうと思います。では、どういう動きをしたらいいかということを考えるときに、実は難しいところは２点あると思っていて、１つは、本当にどういう可能性があるのかという、その可能性が皆さんの前にオープンになっているかという問題が１つあるというふうに思います。それこそ、今の時代、学校の人数が減ってくれば、どちらかがどちらかに吸収されるか、それともその他の２択ではないわけです。例えば、御前崎の例でいえば、御前崎小と白羽小と２つあったときに、どちらかに吸収して片方を無くすという選択だけではなくて、例えば、両方合わせて義務教育学校にしておいて、御前崎小のほうに小学校１年生から４年生、白羽小学校のほうに５年生から中３、これだって可能です。必要な教職員数も、置ける教職員数も同じです。それから、オンラインの話が何度か出ていましたけれども、つい過日、内田洋行というメー

カーから教えてもらったことがあって、今はモニターを置いて投影するということをやっているわけだけれども、技術としては、教室の壁１面がすべてモニターで、そこにプロジェクターで等身大に映し出すこともできる。つまり、我々はこうやって集まって会議をしていますが、ほぼ同じような状況で向こうへ映して授業をすることもできるという状況にすでになっていて、加速度的になっているから、どんどん容易になっていくだろうということが考えられるというように、可能性が多々生まれてきているということです。もう一方でリスクの面でも考えなくてはいけないことがあって、どんなリスクがあるかというと、例えば、学校が小さいから、御中の人数が少ないから一緒にしましょうとしますと、確かに２つ合わせた学校の規模は一定程度確保ができる。しかし、同時に起こってくることが、市内の教員の総数は当然減ってくるわけです。生徒数が同じでも、学校が１校と２校とでは、当然、１校だけのほうがはるかに少ない先生の数しか置けません。そうすると、何かの動きをしたり、事務局を運営するにしても、少ない中で知恵を出し合って、授業研究でも何でもしていかなくてはならないから、これは相当ダメージが来ると考えたほうがいいと思います。ですから、もちろん他の市町と交流することもできるのですが、教育委員会の設置者が違いますので、そこは交流するといっても同じ市内ほど容易にはできないということで、その難しさがあります。それから、学校の跡地がうまれてくるとなると、跡地がうまい形で使えればそれはそれでいいのですが、活性化して市の中心部にという形になる可能性もあります。だけど、最悪なのは、跡地は生まれるけど何にも使われなかった。草ぼうぼうになってしまったという学校を私も見たことがあります。そういう場合には、まさに学校というのは地域衰退のシンボルみたいになって、地域衰退の広告塔みたいな役割を果たす可能性があります。ですから、そこも考えていかなくてはなりません。つまり、問題は、答えは１つではなく、複数の答えがあるのだけれども、それを知るためには相当程度の学習をしなくてはならないということが出てくると思います。ですから、今回のこの１年を基礎にして、そうした問題にチャレンジしていけるということが非常に重要なのではないかと私は考えていますということで、私のコメントは終わらせていただきます。では、堀井先生、お願いします。

〇検討委員（常葉大学教授　堀井啓幸）

10 ヶ月ぶりに皆さんとお会いできました。教育委員会事務局からの報告の後、委員の皆さんから意見をいただきました。昨年度、検討委員会のグループワークの中で、皆さんから色々と前向きな意見をもらったことを思い出しました。私は 6 月 24 日の御前崎文化会館での広聴会に参加させていただきました。参加者からは今後の見通し等を聞かれる場面もありました。いろいろな方法を検討する余地はあるのだろうと思います。個人的にはアナログ的かもしれませんが、やっぱりある程度、こども達が徒歩で通えてあるいは自転車で通える中学校があってそのまわりに小学校があるという形になるのかなと思います。2015 年に文科省から、公立小学校・公立中学校の適正規模適正配置等に関する手引きというものが出ています。それに関わった先生と最近また会う機会がありました。小学校については、徒歩で通えるという意味で 4km、中学校が 6km という通学の範囲を取り払った時の方です。その

先生によると、距離的規定を取り払ったとはいえ、通学範囲を広くする場合、やはり地区との合意これが非常に重要なんだという話でした。浜岡中学校建設の話が出た頃から、御前崎の教育行政に関わらせていただいて、これは私の捉え方ですが、御前崎市役所の方は、市民に寄り添う姿勢が明確だなと感じました。私は今、静岡市の学校適正規模・適正配置の関係に関わっています。静岡市がそうではないという訳ではないですが、この御前崎は、人口とか地域といった意味において、まとまりやすい環境であるかなと思います。御前崎の場合、コミニティスクールが有名なんですが、やはりそこにもそういった風土というものはあるのかなと感じています。今回、学校再編においても、委員会という形で皆さんから貴重な意見を聞けた、この意見を事務局も活かしていただきたいと思いました。今回、教育学の世界でも先を行っている武井先生からもいろいろな意見をいただきました。答えは 1 つではないんだよという問題提起をしていただきましたのでいい形になったんではないかなと思いました。

３　（２）今後の予定について

〇司会（教育総務課係長　坂本浩長）　今後の予定について長尾部長からお願いします。

〇教育部長（長尾詔司）　冒頭に申し上げましたが、現在、教育長が不在ということもあり、4 月以降に教育長が就任しましたら、学校再編の策定を進めていく予定でおります。現在、停滞しているわけではなく、昨年、今年と広聴会・ワーキング等を行ってきた中で、急がずじっくり市民の意見を聞いて欲しいとうような意見も、グループワークでも出ました。グループワークのほうは、中学生から保護者年代、おじいさんおばあさん世代まで幅広い年代層が出席してくれました。そうした流れと判断の中で、市長とも話をしまして、今回、一旦、学校再編検討委員会を閉じさせていただき、令和 5 年度以降、今までの意見を参考にして学校再編計画の策定を進めてまいりたいと考えています。今の時点で、いつまでに計画を策定するということは明確に言えませんが、この 2 年間でやってきたこともあります。この 2 年間を無駄にしないように、来年、何らかの形を示せればと思っています。新教育長が就任しましたら、新しい体制の中で動きが出てくると思います。両教授におかれましては、今までもいろいろな御助言をいただきましたが、引き続きアドバイスをお願いしたいと思います。小中一貫校という話が、今日の会議の中でも出ました。8 ページを見ていただきたいと思います。教育委員会事務局に連絡をいただいた質問のところの答えとして、A の 7 行目から 16 行目に前教育長としての小学校と中学校についての考え方捉え方が記載してあります。先ほど、教授から答えは 1 つではないという話がありましたが、その 1 つではない答えについて、御前崎市としての 1 つの答えを出していかなければなりません。来年度以降それに挑戦していくことになると思います。今後のスケジュールということなんですが、今の時点で明確なことが言えず申し訳ありません。とにかく、2 年の中でいただいた意見は大切にしていきたいと思っております。今後の状況については、ホームページ等で公表してい

きたいと思いますので、引き続き皆さんにも見守っていただければと思います。

○司会（教育総務課係長　坂本浩長）　ありがとうございました。それではこれをもしまして、第５回の検討委員会そしてこちらの学校再編検討委員会を閉じさせていただきます。
　－相互に礼－

４　閉 会